第６回町田市生涯学習審議会会議録

１．開催日時：２０２６年1月２９日（木）　１０時００分～
２．開催場所：町田市役所１０階　会議室１０－２～３、オンライン
３．出席者
　委　員　吉田会長、井上委員、阿波野委員、久住委員、鶴岡委員、
　　西澤委員、仲村委員、渡邉委員、喜田委員、佐々木委員、
　　仙北屋委員、大野委員、増田委員
　事務局　生涯学習部長、生涯学習総務課長、生涯学習センター長、
　　図書館長、図書館副館長、文学館長、生涯学習総務課担当係長、
　　生涯学習総務課職員
４．答申「今後の町田市立図書館のあり方について」に係る取組状況について
５．生涯学習部の報告事項
６．その他

【会議内容】

事 務 局：　それでは第６回町田市生涯学習審議会を開催いたします。
　本日の会議では、２０１９年１月に生涯学習審議会からいただきました町田市立図書館のあり方に関わる答申への対応状況等を議題としております。たくさんのご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
　では、ここからの議事進行を会長にお渡しいたします。

会　　長：　図書館は生涯学習の中核にあり、「あり方」というのは非常に大事なものなので、皆様にご意見をいただければと思っております。
　では、次第に沿って会議を進行します。
　答申「今後の町田市立図書館のあり方について」に関わる取組状況について、図書館からご説明をお願いします。

図書館長：　答申「今後の町田市立図書館のあり方について」に関わる取組状況についてご説明いたします。
　資料１をご覧ください。最初に町田市立図書館についてご紹介いたします。町田市立図書館は１９５８年に開館し、以降、地域館の整備や移動図書館の運行など市内全域に向けて図書館サービスを展開してきました。
　また、周辺自治体との相互利用を拡充し、市民の利便性向上を図ってまいりました。
　現在、図書館７館体制でサービスを提供しており、うち３館は市民セン

ターなどの公共施設との複合施設となっております。
町田市教育委員会では、公共施設のあり方の検討を行うとともに、施設の管理運営、実施事業を効率的に行うために見直しに向けて、２０１８年１０月､生涯学習審議会に今後の町田市立図書館のあり方について諮問し、２０１９年1月に答申をいただきました。
この答申を踏まえ、２０１９年２月に町田市立図書館のあり方見直し方針を作成し様々な見直しを進めてきましたので、現在の取組状況についてご報告をいたします。
次に「答申内容と現在の取組状況」です。まず、「（1）図書館サービスの見直し」について、答申では４点のご意見をいただいております。
１点目は「あらゆる市民が利用しやすい図書館」です。概要は資料のとおりですが、これを受けまして「あり方見直し方針」では「市民の図書館利用の促進」など５つの方針を定め、取組を行ってまいりました。
「現在の状況」につきまして、いくつか抜粋してご説明いたします。２ページをご覧ください。上から２つ目、予約資料受渡しサービス拠点につきまして、２０２３年度から市内の書店である久美堂本町田店を追加し、ました。おそらく書店で図書館を受け取ることができるというのは全国で初めてだと思われます。書店としても売上げが上がったと聞いており、互いにメリットがあった事業であると考えております。
次に、３つ目、２０２２年度から鶴川駅前図書館に指定管理者制度を導入しました。開館時間を拡大しており、利便性の向上を図っております。指定管理者は、ヴィアックスと久美堂による共同事業体で、利用者からも高い評価をいただいております。
次に、５つ目、来館せずに２４時間３６５日利用できる電子書籍サービスを２０２２年度に開始しました。導入にあたっては東京都の補助金を活用し、市費の負担を抑えて事業を開始することができました。資料の最終ページに電子書籍サービスの案内を掲載しておりますが、この案内カードを市内の書店やカフェ等に置いていただき、サービスの周知を図っております。
次に、６つ目、移動図書館の定期巡回場所を見直し、幼稚園や保育園など子どもの集まる場所への出張運行を始めました。移動図書館は、基本的に図書館が遠方にある方に本を借りていただくための手段でありますが、それに併せて、小さな子どもが本を読んだり、本を選んだりする楽しみを知る機会にもなると考えております。出張運行は、幼稚園や保育園からも大変好評をいただいております。
最後に、７つ目、現在は町田市と隣り合っている自治体など１０市と相互利用が可能となっております。このうち、政令指定都市の横浜市、川崎市、相模原市、中核市の八王子市は町田市よりも規模が大きい自治体であ

り、相互利用により町田市民が借りることが出来る本の数は、おそらく全国でもトップクラスであると思われます。

「今後の予定・課題」ですが、上から２つ目、民間企業等との連携としまして、２０２５年１２月にサッカークラブのＦＣ町田ゼルビアと町田市が包括連携協定を締結しました。この協定に基づき、図書館でのイベントやオリジナル図書館カレンダーの制作・配布などを協力しながら行っていく予定です。

次に、３つ目、障がい者サービスとしまして「りんごの棚」を設置する予定です。「りんごの棚」とは、本を読むことに特別な配慮が必要な方が読みやすい本を集めるという事業で、現在、全国各地の図書館で行われています。また、「りんごの棚」の設置にあたっては、後ほどご紹介しますが、学生等が参加している「図書館プランナー」に協力いただくことも考えております。

最後に、４つ目、先ほどもご説明しました移動図書館につきまして、定期巡回場所の更なる見直しの他、車両を小型化し、より多くの子どもたちが集まる場所への出張運行を拡大したいと考えております。

３ページをご覧ください。「こどもの読書活動の充実につながる環境整備」です。答申を受けまして「あり方見直し方針」では「子ども読書活動の推進」など３つの方針を定め、取組を行ってまいりました。

「現在の状況」をいくつか抜粋してご説明いたします。上から２つ目、電子書籍サービスにつきまして、２０２３年度からサービスのＩＤを全ての市立小・中学校の児童・生徒に付与しました。現在、児童・生徒はタブレットを持っており、これを利用して本を読むことが出来るようになりました。２０２２年度に小・中学校各１校で試験的に導入し、大変好評であったため２０２３年度からは全校に拡大しました。他の自治体では、手続きの問題から実施が難しいとのお話を聞いていますが、町田市では学校教育部と連携し、スムーズに行うことができました。

次に、６つ目、中央図書館の中高生世代向けのヤングアダルトコーナーを拡大リニューアルし、若者が利用しやすい環境を充実させました。また、図書館に対しては、本を読むだけでなく勉強する場所として使いたいという声を昔からいただいています。この二つを両立させることは他自治体の図書館も苦慮していますが、町田市立図書館では、中央図書館、さるびあ図書館、忠生図書館に勉強が出来る場所を設けるなどしております。

最後に、７つ目、英語多読コーナーを各館に設置し、どの地域でも英語絵本を手に取ることが出来る環境を整えました。これは、学校教育部を中心に進めている、子どもたちの英語力の向上を目的とした「えいごのまちだ」事業の一環で実施しているものです。実施にあたっては、ＮＰＯ団体に協力をいただいており、来月２月１１日には団体から講師を招き、英語

多読について講演を行う予定です。
　４ページをご覧ください。「今後の予定・課題」です。上から２つ目、学校図書館の支援につきましては、学校のニーズに応じた資料を拡充してまいります。
　次に、４つ目、電子書籍サービスにつきましては、本を手にするきっかけになるように、子どもが興味・関心を持つ図鑑や学習漫画などを中心に児童書の充実を図ります。
　続きまして、「地域のコミュニティ形成を支援する図書館」です。答申を受けまして「あり方見直し方針」では「地域で活動するボランティアの支援」など３つの方針を定め、取組を行ってまいりました。なお、このテーマにつきましては、今までも図書館として進めていたものですが、町田市も含め全ての自治体が重視すべきポイントであると考えています。
「現在の状況」です。上から一つ目、保育園や小学校などで読み聞かせをしている保護者を対象に、本の選び方や読み方の技術向上を目的とした講座を実施しました。また、図書館でおはなし会をやっていただけるボランティアを育成するための養成講座も実施しております。読み聞かせ等をしたいけどもどうしたらよいか分からないといった声をいただくため、講座を受講して技術などを身につけ、活動に役立てていただきたいと考えております。
　次に、２つ目、２０２３年度からイベントの企画・運営を行う若者ボランティア「図書館プランナー」の活動を開始しました。図書館に来るきっかけになるイベントの実施に向けて活動しています。図書館プランナーは高校生から２５歳までの若者で構成され、現在１７名が活動しており、これまでには延べ３０人程度に参加いただいています。活動の内容は読書だけでなく、福祉、環境、社会問題をはじめ、エンターテインメントやサブカルチャーなど広く・楽しくやっていただいています。
　５ページをご覧ください。上から１つ目、公共施設再編に伴い、鶴川図書館を閉館し民設民営の図書コミュニティ施設「つるぼん」へ転換しました。「つるぼん」は、コミュニティを作るということを目的に、約２０の地域団体と連携してイベントを実施しています。図書館をこのような民設民営のコミュニティ施設に転換するのは、恐らく日本で最初になるかと思います。
　２つ目、予約資料受渡しサービスを行っていた南町田駅前連絡所が閉所したことに伴い、南町田グランベリーパーク内にある「まちライブラリー」と連携し、同所にて予約資料受渡しサービスを行っております。先ほどご紹介した久美堂本町田店と併せて、民間企業等と連携してサービス拠点を設けているのは全国的にも非常に珍しい事例であり、今後もこのような協力関係を拡大していく必要があると考えております。

「今後の予定・課題」です。１つ目、今後も読み聞かせ講座等を実施し、読書の普及に向けた活動をしている方々を支援してまいります。

続きまして、「地域の課題や社会状況の変化に対応した運営」です。答申を受けまして「あり方見直し方針」では「インターネットや電子情報の利用環境の整備」など２つの方針を定め、取組を行ってまいりました。

「現在の状況」です。上から３つ目、昨年２０２５年３月から図書館全館でフリーＷｉ－Ｆｉが利用できる環境を整備しました。フリーＷｉ－Ｆｉについては、特に若者からのニーズが高く、導入により利用者の利便性が向上したと考えております。

次に、４つ目、図書館システムの更改を機に、昨年２０２５年３月からオンラインでの利用登録やスマートフォンで利用券を表示することなどができるようになりました。町田市立図書館は全国的にも電子化が進んでおり、特に、スマートフォンが利用券として使用できることは便利であると考えており、利用者も拡大しています。

６ページをご覧ください。上から３つ目、図書館内に特集コーナーを設け、町田市の施策や魅力を多くの方にＰＲしております。図書館は市内の公共施設でトップクラスに集客力があり、庁内の様々な部署から事業の紹介や連携の依頼が絶えません。

「今後の予定・課題」です。１つ目、電子書籍サービスにつきまして、サイト上で特集を組むなどのＰＲを行います。電子書籍サービスは導入しただけでは利用者が増えません。「この様な本を読むことができます」などサービスを紹介する工夫をすることで利用者を増やしていきたいと考えております。

続きまして、「再編を進める上での留意点」についてです。答申を受けまして「あり方見直し方針」では「サービス利用に格差が生じることのない再編の検討」など５つの方針を定め、取組を行ってまいりました。

「現在の状況」です。先ほどご説明しました「つるぼん」についてです。鶴川図書館の再編にあたっては、２０２０年度から地元の方々とお話を始めました。新しいコミュニティ機能をどのようにつくるかなどを話し合い、２０２３年度には地域の方々などによる運営法人を設立し、２０２５年５月に「つるぼん」がオープンしました。愛称の「つるぼん」も、地域の方々の投票により決めたものです。

７ページをご覧ください。久美堂本町田店や南町田のまちライブラリーと同様に、「つるぼん」においても図書館の予約本受渡しを行っております。また、「つるぼん」としても約１万５，０００冊の本を所有しており、これを貸し出すといったこともしております。さらに、コミュニティ機能として飲食が出来るスペースを設ける他、様々な団体と連携してイベントを実施するなど、まだ始まったばかりですが、様々なことに取り組んでい

て、今後も拡大していくと見込んでおります。このように、図書館にはない機能があるため、今までの図書館の利用者はもちろんですが、それ以外の方々の利用にもつながっていると考えております。利用者数につきましても、転換前の鶴川図書館の数にほぼ匹敵するほど多くの方々にご利用いただいております。

「今後の予定・課題」です。地域でのコミュニティづくりが進むよう、今後も運営支援を継続してまいります。この「つるぼん」については、町田市だけではなく、これからの社会教育行政や生涯学習事業の１つの形として、全国の図書館行政の先駆けになっていくといいなと考えております。

会　　長：　それでは、各委員からご意見などをいただきたいと思います。

Ｋ 委 員：　南町田グランベリーパークにある「まちライブラリー」を利用しています。木の棚や大きな窓があり、公園が広がるところなので居心地もよく、良い居場所となっていると感じています。

Ａ 委 員：　私は「まちライブラリー」の近くに住んでいますが、とてもいい環境だと思っています。グランベリーパークを作る際に切った鶴間公園の木を活かしてテーブルや棚などを作ったそうです。近隣にある鶴間小学校の子どもたちも、町探検で見学させていただいた際に色々なお話を聞かせていただきました。まちライブラリーのスタッフの方から伺ったのですが、施設見学の後、５０冊の本を寄贈しに来てくれた親子がいたそうです。本当にうれしかったとおっしゃっていました。近隣の方にとって身近な施設になっていて、人と人とをつなぐ、図書館とはまた違ったコミュニティ施設になっていると感じました。本を借りるなどしなくても、気軽にお茶を飲めるというところなので、そういったコミュニティの場というのは大事だと思います。

図書館長：　南町田の「まちライブラリー」は、公園の中の施設としてモデルケースにもなっているようで、武蔵野市の「まちライブラリー」は町田市をモデルに作られたそうです。

Ｊ 委 員：　色々と説明していただき、改めて町田市の図書館は様々な取組を進めていると思い感心しました。ただ一方で、その取組が十分に市民に伝わっているかというところは、正直言って疑問があります。私も比較的市政等に対してはアンテナを高く張り色々と情報を入手していますが、例えば近隣市との相互利用についても、どれだけの市民の方が知っているのか。また、久美堂本町田店を予約受渡しサービスの拠点としたことについても、非常

にいい取組だと思いますが、市民に周知する努力も一層高めていっていただく必要があると思いました。

もう一つは、図書館の運営は色々な形態がありますが、私は、鶴川駅前図書館は非常に使いやすい図書館だと思っています。指定管理者により運営されています。指定管理もメリット、デメリット双方あるかとは思いますが、鶴川駅前図書館だけに導入するのか、または今後は他の図書館に広めていくのかなど、方向性を考えていただく必要があると思います。他の図書館に魅力が全くないとは申しませんが、指定管理により柔軟な運営が可能となり、開館時間等も拡大したとのことなので、市民にとってはより使いやすい形態になっていると思います。今後、図書館を中長期的にどういう形で運営されていこうと考えているのか聞かせていただきたい。

図書館長：　図書館の取組をもっと多くの方に知っていただく必要があることは重々承知しております。町田市立図書館は、町田市の公式ホームページとは別に自前のホームページを持っており、また、ＳＮＳ等を使った発信もしております。しかし、まだまだ周知が不足していると思っておりますので、手段も含めて拡大をしていきたいと考えております。

今後の図書館運営につきましては、図書館に限らず公共施設全体の再編として検討する必要があると考えています。様々な経費が上昇傾向にある現在ですが、望ましい運営形態については各館の状況を鑑みながら検討してまいります。

Ｊ 委 員：　もう一点、近隣市との相互利用について、町田市民が他市の図書館を利用しているケースが多いのか、それとも逆に町田市の図書館を他市の市民が利用されているケースが多いのか教えてください。

図書館長：　近隣１０市と相互利用を行っていますが、基本的に横浜市、川崎市、大和市、相模原市といった神奈川県内の市民は、町田市の図書館を多く利用されています。東京都内については、どちらかというと町田市民が他市の図書館を利用していることが多いです。ただし、例えば都県境に近い町田市の中央図書館は相模原市民も多く利用していますが、町田市の西部にお住いの方は相模原市の橋本図書館が近いため利用が多いなど、地域的な要因もあると思います。また、多摩市立図書館が新しくできましたが、町田市の北部地域にお住いの方や通勤で多摩センターに行かれる方の利用が多いと聞いております。

Ｈ 委 員：　移動図書館の巡回運行の見直しは、既存の巡行先はそのままで、子どものいる場所への運行を増やすといったものでしょうか。私は子育てをして

いるときに町田市に住んでおり、移動図書館をよく利用していましたので、公園に行くのを楽しみにしていました。子育てをしている方にとっては、図書館に行くよりも、来ていただいて本を借りられる場所があった方がありがたいと思います。

また、町田市社会福祉協議会では町田ボランティアセンターも運営していますが、図書館で活躍するボランティアの養成講座について、一般市民の全員にＰＲをしているのか、ＰＲの方法などを聞かせてください。今、高齢者でも、子どもセンターなどで読み聞かせをされている方がいらっしゃいます。町田ボランティアセンターにも人材がいますので、今後、連携が取れたらよいと思いました。

もう一点、質問ではありませんが、以前に仕事で鶴川地区を担当していましたが、「つるぼん」では多くのイベントを実施しており、ＰＲもすごいです。多文化交流のイベントなど多くの人が関わっていて、このような施設が色々な地区にできたらいいなと思っております。

図書館長：　移動図書館につきましては、町田市では３台の車両により各地を巡回しておりますが、全国的に見ても移動図書館を行っている自治体は少なく、また、車両を３台も保有している自治体はほとんどありません。現在、この３台の車両をフル稼働させて巡回を行っておりますが、今後、保育園や幼稚園など子どもの集まる場所への出張運行を増やすためには、定期巡回先を統合するなども必要であると考えています。また、現在の車両は大きいため、保育園等の園庭に入れないこともあり、運転手の確保も難しくなっています。車両を小型化することにより運行先の拡大やコスト面でのメリットがあると考えています。なお、巡回場所の見直しにあたり、今年度に移動図書館に係るアンケート調査を実施しましたので、調査結果を踏まえて慎重に検討してまいります。

ボランティアの養成講座につきましては、館内への掲示や図書館ホームページ、また、ＳＮＳによる周知を行っております。町田ボランティアセンターとの連携につきましては、是非進めさせていただきたいと思います。

「つるぼん」では、公立図書館ではできない様々なことを行っており、コミュニティを広げるという意味で全国的な試金石になり得ると考えていますので、今後も協力してまいります。

Ｂ 委 員：　私の妻は忠生小学校で読み聞かせをしており、忠生図書館をよく利用しています。子どもが幼いときには毎晩１０冊は必ず絵本を読んであげていました。全て購入していたら大変ですが、図書館で借りることができたため助かっています。子育て世帯にとって図書館はなくてはならない存在であると思っております。ただ、忠生図書館の隣には忠生小学校、忠生中学

校があり非常にいい環境ですが、子どもたちが果たして本当にそこで本を借りたり読んだりしているのかすごく気になるところです。利用者の年齢層を聞かせてください。

また、図書館の運営にあたって色々な努力をしていただいているということを市民の１人として感謝申し上げます。私も国際交流センターのボランティアを１０年以上やっており、昨年７月にも国際交流センターと市立図書館の共催で事業を行いました。ただ、そういった事業を行っても、周知というところでなかなか市民の皆様に知っていただくのが難しく、それほど集まりはしませんでした。しかし、こういった事業を継続していくことが大切だと思います。図書館についても、本を借りるだけではなく、色々な知識を得られる場であるということが市民に浸透していったらいいと思っております。

図書館長：　図書館利用者の年齢層につきまして、手元に統計資料がなく正確な数値はお示しできませんが、忠生図書館につきましては隣の小・中学校と一緒に事業を行うなどしているため、若い方にも多く利用いただいています。なお、利用者の年齢層については各館でかなり違いがあり、例えば山崎団地の中にある木曽山崎図書館はご高齢の方に多く利用いただいているなど、地域的な要因が大きく影響します。忠生図書館は、図書館全館の中で一番新しい図書館ですが、隣に小・中学校があるため、児童コーナーを広くするなど、若い方の利用が多いことを想定した作りにしております。

Ｇ 委 員：　「つるぼん」については、私も立ち上げの頃から色々な形で関わらせていただく機会がありました。既存の組織ではなく、地域の方が新しい組織を立ち上げて運営をしていますが、組織立ち上げに至るまでには図書館職員の方々のご苦労も相当あったと思います。おそらく日本で初めての事例であり、課題はたくさんあると思いますが、ぜひ少し長い目で、みんなで育てていくといった視点で行政の方に関わっていただきたいと考えています。また、立ち上げに関わってきた職員の方々の知見をこれからの公共施設再編などに活かしていただくとともに、「町田にはこんなに市民力がある」といったシティプロモーションとして市外にも発信していただくといいのではないかと思います。私の友人が鶴川の団地に住んでいますが、夫は外国人で日本語を全く話せず、いつも家で過ごされていたそうです。このことを「つるぼん」のスタッフにお伝えしたところ、「Ｇｌｏｂａｌ　Ｆｒｉｅｎｄｓ」というシニアの日本人男性と外国人男性による多文化共生コミュニティの場を作ってくださり、「つるぼん」のスタッフが伴走支援に入った形で月１回、会合等を開催しているそうです。シニアの男性がコミュニティに参加するのは、女性に比べるとハードルが高いと思いますが、

そこにはリタイアした外国での駐在経験の長い英語の得意な男性が来ているようで、男性同士で車の話などで盛り上がっているそうです。特に経験豊富な男性の地域参加という面でも、多文化共生という面でもすごくいい取組につなげていただいていることにお礼を伝えたいと思いました。このような形が、町田の中で広がっていくといいなと思っております。

Ｆ 委 員：　私は玉川大学で教員をやっています。大学図書館から聞いた話では、３年位前は学生は１年間に１人平均２０冊ほど本を借りていたそうですが、近年は１年間で７冊しか本を借りないそうです。学生としては、時間や労力を費やして本を読むことは非常にパフォーマンスが悪いと思っているようです。今、パソコンでレポートなどを読んでいると、ＡＩ機能により「要約しますか」などと案内が出てきます。タイパ（タイムパフォーマンス）・コスパ（コストパフォーマンス）と言われますが、簡単で楽にできるものを求めているのだと思います。ＣＤやＤＶＤも買わず、みんなサブスクリプションに入っていて、物質感のあるメディア離れが非常に顕著だと思います。私は文学を教えていますが、今の学生達は何でもデジタル的な視点で、ピンポイントで自分が必要なことだけを求めています。でも、表現の魅力というのはそういうところにはないと思います。例えば、一見関連がないことが後に繋がっていくなど、アナログ的な受け取り方を実践していくことで、面白さが分かっていくことがあります。今後、若い人たちに文学の面白さを伝えるためには、例えば、文学作品とその解説をオンデマンドで見ることができるものをつくり、若者が馴染んでいるメディアを通じて伝えることも一つのやり方かと思います。

生涯学習は幅が広いです。今まで色々なことに取り組み、充実してきましたので、今後も続けていただきたいと思いました。

図書館長：　先ほど図書館プランナーをご紹介しましたが、リーダー的な学生が玉川大学の学生です。今後の活動にあたり、今委員からいただいたご意見等を参考にさせていただきたいと思います。

Ｅ 委 員：　要望が２つあります。１つ目は事務局に対してですが、今回の図書館の議題は過去の答申への答え・進捗として示されています。しばしば行政の会議体からの答申は、出した後あまり参照されないと思います。答申のその後をフォローしているという意味で重要だと思うので、図書館関係に限らず、こういった機会は今後も設けていただきたいと思います。

２つ目は図書館に対してですが、本日の生涯学習審議会の資料や議論をぜひ図書館協議会でも情報共有していただきたいと思います。本日の内容はホームページに掲載されるとは思いますが、それとは別に報告として入

れていただきたいと思います。

「つるぼん」については、私自身が図書館の専門家だからということもありますが、すごく画期的な取組だと思っています。他の自治体で類例がないことだと思うのです。理想形かもしれないです。地域の施設ですから、地域の人たちの関わりが大きくなるというのはいいことだと思います。一方でリスクもあり、究極的には全部そういった施設にしてしまえばいいという、図書館を全部手放すきっかけになってしまうおそれもあると思います。そうしたときに、私は図書館の専門職、ライブラリアンというのは何かなと思うのです。図書館ではなくなったから終わりといったものでなく、図書館あるいは司書が町田市全体の図書コミュニティをどう支援していくか、どう発展させていくかを考えるきっかけになると思っています。また、私は町田の図書館の強みというのは何か、これまでずっと考えてきました。他の自治体ですと、例えば学校と一体化した図書館や行政のデータバンクとして使われている図書館などがありますが、町田の強みが何かを表すのは難しいです。本も大事ですが、それにこだわらず、町田ならではの取組、町田の強みみたいなことを検討していかれるとよいのではないかと思っています。

図書館長：　生涯学習審議会の内容につきましては、図書館協議会でも報告させていただきます。

「つるぼん」につきましては、予約資料の受渡しなど図書館の事業を担っていただいており、今後も支援をしていきたいと考えております。

Ｉ　委　員：　図書館については、これまでの生涯学習審議会でも議題等になってきましたが、本日は久しぶりにまとまった資料を見させていただき、すごく色々なことに取り組んでいると感じました。本を読ませるだけではなく、地域や色々な方々と繋がることは、すごく大切なことだと思います。先ほどもお話がありましたが、今の学生は本と縁遠くなっていると感じています。私は中学校の校長をしていましたが、子どもたちが本から離れているのは、明らかだと感じていました。今、小学校の授業を見に行くとみんなパソコン上で完結してしまいます。国語を教えていた私としては、このままでは日本人は漢字を読めなくなるのではないかと心配しています。論文等もＡＩで作成することができてしまいます。私が所属している玉川大学の教師教育リサーチセンターでも学生に論文を提出してもらいますが、どうやってＡＩで作成したものかを見破るかなどを考える時代になっています。一方で、本が好きな学生たちもたくさんいます。そういう学生を増やしていくためにも、やはり小学校や中学校での取り組みが必要だと思います。小学校や中学校の図書館は、あまり使われていないこともあるのです。ただ、

それを見直して魅力的な場所になれば、子どもたちも使うようになると思います。学校によって取組の差が激しい状況ですが、どうやって子どもたちに図書館に行ってもらえるか教員も考えていかなければいけないのだろうと思うのです。

町田にはこれだけ魅力的な図書館があるということを子どもたちはどれだけ知っているかが気になります。先ほどもお話がありました忠生図書館は、学校の近くなので子どもたちにもよく知られていますが、図書館から遠い地域もあります。私としては、学校に対してもっと図書館を見学させてほしいということを要望していきたいと思うのです。中学生の場合、職場体験などで行くこともありますが、例えば、学年ごとに図書館見学に行くなどもっと図書館と学校がつながっていただきたいと思います。

図書館長：　学校と図書館のつながりというのは、とても大切なことであると考えております。本来の図書館の機能というのは、極端に言えば本を集めて整理し、皆様に読んでもらうというものです。ただ、その機能だけがあっても本を読む人を増やすことはできません。先ほど大学生が本を読まなくなったとのお話がありましたが、私の実感としては、恐らくその上の世代、学校を卒業した２０代・３０代が既に本を読んでいません。小さいときに本に親しんでいただく、楽しみを知っていただくというのが一番大事なことだと思うので、そこに注力をしていきたいと考えております。

Ｄ 委 員：　近接している市との相互利用が可能になったということはとてもいいと思っていますが、自治体以外に大学の図書館も他にはないような資料を持っているところもたくさんあります。例えば、和光大学の図書館は展覧会の小さなリーフレットを集めています。そのようなものを集めている図書館はあまりなく、和光大学の図書館に行かないと見ることができません。大学の図書館も利用できるようになればいいなと思っています。

もう一点、私は音訳グループで障がいのある方たちに音声データを提供するという活動に加わっています。デイサービスや知的障がいのある方がいらっしゃる花の家などで絵本の読み聞かせも行っているのですが、大型の絵本が少ないと感じています。ただ読めばいいのではなく絵も大事なので、１０人から２０人がいる部屋で行う際は大きい絵本が欲しいのです。紙芝居もですが、そういったものも充実させていただきたいと思っております。

図書館長：大学の図書館ですが、今お話のありました和光大学につきましては町田市と協定を結んでおりますので、町田市民でしたら本を借りることが出来ます。その他の大学については協定を結んでおりませんが、大学によって地

元向けに図書館を開放している例もあります。また、紹介状があれば対応している大学図書館もあり、町田市立図書館でもご相談があれば紹介状を書くこともしております。和光大学は町田市の図書館では持っていないような資料を多く持っていらっしゃるので、ぜひ利用いただければと思います。

大型絵本ですが、ご存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、普通の版ではなく大きな絵本のことです。町田市立図書館でも所蔵しており、読み聞かせをされている団体等に貸出しもしております。ニーズがあることは承知しておりますが、高額であるため多く購入することが困難な状況です。

C 委 員： 小学校では子どもたちも本が好きで、頑張って読んでいます。私が教員になって１年目に初任者研修として図書館業務を２日間経験しました。そこで図書館の方が話されたことが今でも忘れられません。最初のワークは、子どもが宿題として出されるような調べ学習のテーマについて１時間かけて図書館で調べるといったもので、なかなか難しいものでした。終了後に図書館の方から「先生方どうでしたか。調べられないでしょう。小学生に分かるような資料というのは、結構見つけるのが難しいのです。だから、やたらに子どもに図書館で調べてこいと言わないでください。」と言われました。すごくそれを覚えていましたので、現在の町田市の図書館が子どもたちに寄り添い、どうやったら図書館を利用してくれるのかなどを考えていただいていることは、本当にありがたいと感じています。私が校長をしている小学校では、子どもたちは図書の時間が好きで、好きな本を選んでじっと読んでいます。この選ぶというところが大事だなと思っています。学習漫画も図書館に置いてあるので、それを読んでいる子もいます。活字を追って自分でイメージしながら本を読むという面白さを味あわせてあげたいと思っており、自分が担任のときには子どもと一緒に、この子はこんな本を好きなのではないかとか、このぐらいだったら読めるのではないかなどと一緒に本を選んであげていました。でも、今は担任も忙しいのか、漫画を読んでは駄目だと言うだけであったり、または静かに読んでいるなら漫画でもいいから読ませておこうと考える担任もいます。学校の使命としては、本が好きになり読書に親しむ子どもを育てていくという視点が一人ひとりに必要なのだろうと思います。また、図書館からの資料の貸出しサービスはとても助かっています。先ほどコスパやタイパの話もありましたが、今、子どもたちは１人１台タブレットを持っているので、何か調べるといったらそれで調べるのが一番早いのです。だから、わざわざ本を探して、どこにあるかな、探したけれどもなかったということは煩わしいと思っているのです。しかし、私は子どもたちが主体的に動き調べて、結果

として情報を得られなかったということも１つの経験かなと思っています。手間をかけて自分で調べるということを、学校の色々な場面で大切にしていきたいと思っています。子どもたちにどうやって読書を習慣づけるのか、学校が頑張るところもありますが、子どもたちは大人を見て真似するところがあります。先ほども大人が本を読まなくなったというお話がありましたが、大人が周りで本を読んでいれば子どもは真似すると思います。最近は電車に乗ると大人はみんなスマートフォンを見ており、本を読む人は珍しくなりました。私はいつも鞄に本を入れていますが、教員は興味を持つようで「校長先生、何を読んでいるのですか」と聞かれることがあります。本にはそういう魅力があると思うので、子どもに対して働きかけるだけでなく大人に対して働きかけていることも、子どもの読書好きを増やすのに無駄にはならないと思っています。

図書館長：　委員がお話されたように、本を読む子の多くは親も読んでいることが多く、大人の影響は大きいと思っています。また、学習漫画については、出版事業者もかなり力を入れており、昔に比べると時代考証もしっかりされていて結構読めるものだと感じています。ただ、今は漫画離れも始まっていて、読むことが苦手な方もいます。なお、町田市立図書館は全国の図書館でも珍しく漫画を集めています。今年から予約もできるようにしました。多摩地区の他の図書館では、そもそも漫画は持っていないところも多くあります。漫画も本の一部であり優れたものがたくさんありますので、ぜひ活用していただきたいと思います。

Ａ 委 員：　私は小学校のボランティアコーディネーターをしておりますので、子どもの読書活動についてということで幾つかお話させていただきます。私は図書指導員として平成１４年から７年間、図書室の整備をしておりました。今、小・中学校全校に図書指導員がいますが、平成１４年の頃の図書室はほこりがいっぱいで古い本もありました。しかし、先生方が授業をしながら図書室の整備なんてとてもできるものではないと思いました。そこで、私たち図書指導員が図書室の整備や、子どもたちがいかに図書室に来てくれるか、本をたくさん借りてくれるかという工夫を色々としました。現在も、図書指導員の方が頑張ってらっしゃいます。しかし、先日の学校運営協議会で保護者アンケートの結果が示されましたが、「子どもたちは本を読んでいると思いますか」については最低ランクだったのです。保護者が自分の子どもは本を読んでいないと感じているのだと思いました。低学年の子は図書室に来るのですが、高学年になると図書の時間は他の授業に充てられるようで、来ないそうです。蔵書もたくさんあり、きれいにしている図書室に来られない状況はかわいそうだなと思いました。子どもたちに

「本を読んでいる？」と聞きましたが、読みたいけれども習い事や学習塾などがあり、宿題もやらなければならないので時間がないとも言っていて、とても残念だと感じている昨今です。私の息子は本が好きで、図書館の司書になりたいとも言っていました。以前にひなた村でやっていた童話コンクールに応募して入賞したこともあります。その影響か、孫も本が好きな子で、今年度のショートショートコンクールで賞をいただきました。本を読むことによって自分のいろんな表現を学ぶことはすごく大事なことだと思うので、ぜひ学校のカリキュラムも考えていただけたらと思います。鶴間小学校は、以前、毎週月曜日の朝に保護者の方が来て読み聞かせをしていたのですが、時間がなかなかとることが出来なくなり月１回になってしまいました。本好きな子にしようと言いつつも、授業時間との兼ね合いもあり先生方も本当に苦しいとおっしゃっていました。

２点お聞きしたいことがあります。小・中学生に電子書籍サービスのＩＤの配付をしたとのことですが、利用率とはどのぐらいでしょうか。また、読み聞かせボランティアの養成講座について、以前は学校で出張講座を実施していただいていましたが、現在はできないとのことです。読み聞かせのボランティアに興味のある保護者も多くいます。出張講座を開くことは難しいのでしょうか。

図 書 館

副 館 長：　子どもたちに配布した電子書籍サービスＩＤの利用状況ですが、２０２４年度の実績では全体で約１２万冊の貸出のうち、約７万冊が児童・生徒からの利用でした。多くの子どもたちにご利用いただけていると認識しています。

ボランティアの養成講座につきましては、中央図書館館にて集中的に開催させていただきたいという考えがあり、来館していただく方式を取っております。出張講座につきましては、もし多くの方が集まる状況でありましたら、何か新しいことができるかというのも含めて私どもでできる範囲で考えて行きたいと思います。

副 会 長：　私も読み聞かせの講師派遣などをお願いできないかなと考えておりました。例えば３０人以上集まれば来ていただけるなど、読み聞かせの裾野を広げていくために何か協力できることがあるのではないかなと思います。

また「つるぼん」や南町田グランベリーパークの「まちライブラリー」にも足を運んだことがありませんでしたが、今日お話を聞いて行ってみたいと思いました。先ほどからお話が出ているとおり、発信力みたいなものが必要になってくると思います。民間との協力で色々なことがウイン・ウインにということもあります。「きんじょの本棚」という図書館とは異な

る取組がありますが、「図書館でこんなイベントがあります」といった情報を共有するなどしてお互いにもっとうまく進んでいけばいいなと思いました。

図書館長や委員から子どもが本を選ぶことが大事であるとのお話を聞き、私も最初に図書カードをつくったときの記憶が蘇ってきました。最初は親から与えられていたものが、自分で好きな本を選べるようになり、すごく誇らしい気持ちになった記憶があります。本を借りるとカードにゴム印を押され､今で言うとポイントが貯まるような達成感がありました｡色々なことが詰まった図書館の改革というのは素晴らしいものだと思いました。

図書館長：　「きんじょの本棚」につきましては、資料１の４ページに記載しております「読書ＭＡＰ」に図書館以外で読書活動している団体を紹介するコンテンツとして掲載しております。今後も協力していきたいと思います。

図書カードにつきましては、今もパンフレットのようなものを作っており、カウンターでお声がけいただければゴム印を押すといったことをしております。また、インターネット上で読書履歴を確認することもできますので、是非ご利用いただきたいと思います。

会　　長：　図書館が考えなければいけない事項をいくつかお話させていただきます。まずはＳＮＳの活用です。どうやって情報を周知して人につなげていくか、図書館全体で考えなければいけないと思います。

それからＡＩの活用です。私もＡＩを利用しますが、使っているとわかってくるのが人間の持っている感性の大事さです。ＡＩは所詮ツールですが、自分がものを考えるときの媒介として役立ちます。このＡＩを図書館がどのように活かすかも大事なことだと思います。

最後にコミュニティの推進です。１つの事例として「つるぼん」がありますが、今後ますます増えてくると思います。市民により運営されるコミュニティ施設というのは非常にいいやり方だと思います。本を媒介にしてみんなとつながる。学校もコミュニティスクールになっているわけですから、図書館もコミュニティ図書館があってもいいだろうと思います。

会　　長：　さて、今回は今期最後の会議となります。生涯学習部長と委員の一人ずつから簡単な挨拶をいただきたいと思います。

＜生涯学習部長挨拶＞

＜委員挨拶＞

会　　長：　以上をもちまして第７期町田市生涯学習審議会を終了します。皆様ありがとうございました。

《資料》

資料１　答申「今後の町田市立図書館のあり方について」に係る取組状況について

資料２　生涯学習部の報告事項